

現代文×英語 教科横断型授業
夏目漱石『こころ』 語句・解釈・表現 ～言語の多様性～
教員用説明プリント

市立札幌藻岩高等学校 對馬光輝

1. 教科横断の意義と国語科の役割

教科横断の意義 (*1)	a	各学校においては、教科等の目標や内容を見直し、(中略)教科等横断的な学習を充実することや、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うことが求められる。	
	b	生徒に「生きる力」を育むことを目指して教育活動の充実を図るに当たっては、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的に育成することが重要であることを示している。	
	c	深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。	
言語能力の向上における国語科の役割 (*1)	a	言語能力の向上は、生徒の学びの質の向上や資質・能力の育成の在り方に関わる重要な課題として受け止め、重視していくことが求められる。	
	b	言語能力を育成するためには、(中略)特に言葉を直接の学習対象とする国語科の果たす役割は大きい。(中略)創造的・論理的思考の側面、感性・情緒の側面、他者とのコミュニケーションの側面から言語能力とは何かが整理されたことを踏まえ、国語科の目標や内容の見直しを図ったところである。	
言語活動の充実 (*2)	平成20年答申において、言語は知的活動(論理や思考)の基盤であるとともに、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であるとされている。このため、各教科等において言語活動を充実する際には、このような言語の果たす役割を踏まえた指導を行うことが大切である。また、言語活動が単に活動することに終始することのないよう、各教科等のねらいを言語活動を通じて実現するために意図的、計画的に指導することが重要である。以下、言語の役割を踏まえた、高等学校における言語活動の指導の在り方と留意点について整理する。		
	a.知的活動(論理や思考)に関すること	b.コミュニケーションや感性・情緒に関すること	
	各教科等の指導において論理や思考といった知的活動を行う際、次のような言語活動を充実する。 ○事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝えること ○事実等を解釈するとともに、自分の考えをもつこと、さらにそれを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること		各教科等において、コミュニケーションに関する指導を行う際には、他者との対話を通して考えを明確にし、自己を表現し、他者を尊重し理解するなど互いの存在についての理解を深めるような言語活動を充実する。各教科等において、感性や情緒に関する指導を行う際には、体験したことや事象との関わり、人間関係、所属する文化の中で感じたことなどを言葉にしたり、それらの言葉を互いに伝え合ったりするような言語活動を充実する。

2. 仮説

a.教科横断による深い学びの実現	b.言語能力の向上による思考力と感性の醸成
深い学びを実現するには、教科の目標や内容を見直しながら、各教科で獲得した様々な視点を組み合わせることが効果的である。	国語科を中心として言語能力を向上させることによって、学びの質が向上し、思考力や豊かな感性、コミュニケーション能力が育成される。

3. 概要

内容〔文学国語〕	夏目漱石の『こころ』の英訳作品をきっかけにテキストを解釈しなおすとともに、日本語と英語の表現の違いを感じ、直訳に留まることなく語句の意味を理解して効果的に表現する。			
育成される能力 (*3)	a	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する力。	知識技能 B 読むこと 表現力	(ア)
	b	情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする力。		(イ)
	c	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える力。		(ア)
	d	語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈する力。		(イ)
	e	他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察する力。		(ウ)
	f	文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察する力。		(エ)
	g	設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める力。		(キ)

4. 言語活動の留意点

言語活動 チェックリスト (*4)	NG	OK
	目標実現にかかわらず、取って付けたような活動になっている。	目標実現のための手段として有効な言語活動になっている。
	言語活動ありきのイベントのような授業になっている。	
	言語活動を取り入れただけで見直しも振り返りもない。	
	子供が言語活動を行う意義を理解していない。	
	教師が言語活動を行う留意点や方向を明示していない。	言語活動が思考・判断・表現の学習活動として機能している。
	話合いの結論がどのグループも同じで、答合わせをするためだけの活動になっている。	
	いつもワンパターンの話合いばかりで子供が飽きている。	
	表現する前に、知識技能の領域で一定の理解が図られていない。	様々な言語活動のうち、適切な言語活動を設定している。
	話合いの前に個人で考える時間が十分与えられていない。	
評価規準・評価方法を意識せず、単に活動を取り入れただけになっている。	学習評価を意識して言語活動を取り入れている。	
個々の子供の育成を見取ることができない大規模な活動になっている。		

*1 文部科学省(2019)『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編』東洋館出版社
*2 文部科学省(2014)『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【高等学校版】』教育出版
*3 文部科学省(2019)『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編』東洋館出版社
*4 2022年11月17日に倉敷市芸文館で開講された『全国高等学校国語教育研究連合会第55回研究大会』での文部科学省講演の内容による

5. 生徒の振り返り

a	<p>英訳では単語の意味と原文とのすり合わせだけでなく、翻訳者の解釈を含むか否かでデョイスする単語が変わるのがとてもおもしろかったです。また、言葉と真剣に向き合って論理的に意味を理解していく過程が楽しかったです。自分でもレポートを書く際に、使おうとしている言葉が本当に適切かどうか、もっと言いたいことが表せる他の言葉がないかどうかをよく調べますが、面倒くさがらずにやってきてよかったなと思い、大事なことだと改めてわかりました。書き言葉では意識できていても、話し言葉ではついごまかしてよく知らない言葉を使ったり、不適切な言葉を使ったりしてしまいがちなので、自分の発する言葉ともしっかり向き合おうと思いました。知識を横断して思考できるように、高校3年間はいろいろな教科をたっぷり学び尽くしてやろうと思いました。</p>
b	<p>私はこの前の英表の授業で「選ぶ」という英語をchooseと書きました。私は特に深く意味を考えるとなく、選ぶという単語と言えばchooseだろうという気持ちで書きました。しかし、解答はselectとなっていて、別にchooseでもselectでもどちらでもいいよなと思い、そのままスルーしてしまったことがあります。しかし今回の授業で、同じ意味でも感情として使うものと、動作に対して使うもので違う単語になったり、特定の状況でしか使わないものがあったりと、かなり意味が変わることがわかったので、調べてみました。私が選んだchooseは、「主観的な選び方」と書いてあり、解答のselectは「客観的な選び方」と書いてありました。今調べてみると同じ「選ぶ」でも使う単語によってかなり意味が変わっていて、今でも英作や問題などで沢山英語を書き進めたいけれど、状態によって英単語を使い分けられてなかったということを知り、これからの英語の勉強では使い分けを意識していきたいと感じました。また、捉え方は人それぞれで、動作だと考える人もいれば感情だと考える人もいて、みんなが納得できるような単語はなんだろうと考えることもできたため、正確に文章を捉え表現する力が身についたのではないかなと思います。他の教科と国語を組み合わせて考えることによって、より沢山の表現を身につけることができるので意識して勉強に取り組みたいと思いました。</p>
c	<p>今まで本文を読んだ時に詳しく意味を追求してなかった文章でも、改めて深く読んでみることで新たな発見をすることが出来ました。同じ意味として使われている英単語でも深く考えてみるとニュアンスが異なっていたり、翻訳家によってそれぞれの表現の仕方が異なっていて、言語の難しさを実感しました。しかし、周りの人と話し合いながら様々な考え方を聞くことで多くの学びを得ることが出来て、とても面白かったです。また、色々な場合を想定しながら考えることが出来たので、考える力を身に付けられたと感じました。これからは、言葉に真剣に向き合い、自分が使う言葉に責任をもっていきたいと思いました。他教科もそれぞれの繋がりを大切にしながら学んでいきたいです。</p>
d	<p>正しい語句を選ぶと言っても、人によって正しい語句は違っていることを学べたので、ただ話す時でも語句の使い方に気をつけて、相手と自分と違って少しでも合う語句を選んで話せるようにしたいと感じました。又吉さんの話にあった日本語と英語の2本の線から成る幅を大切に、そしてもっと広げられるように学びを深めていきたいです。教科横断型の授業は記憶がある中で初めての経験で、楽しく受けられたことがとても嬉しいと感じました。1教科だけでなく、そこから派生させて学んでいけるようにしたいと思います。ありがとうございました。</p>
e	<p>本日の授業を通して私が思ったことは、自分は大人にならなような考え方ができるようになるのかなということです。自分は視野があまり広くなく、多方面から物事を見ることができません。今日の対馬先生の授業を聞いてみると、「英語と国語の横断。日本語では〇〇と書かれているが、英語ではなんの単語を使うか。」といった普段の国語ではあまり触れることのない違う部分を考えて気がしました。普段よりもたくさん先生の意見を聞くことができ、充実した意見交換をできました。一つの視点からみるだけでなく、いろいろな視点から見て考える大切さを私は感じました。</p>
f	<p>私は将来国語に関わる職業につきたいと思っており、英語などをやっていることが将来の役に立つのか分らなかったが、今回の授業で無駄ではなかったことが分かってとても安心した。また、同じ意味の単語でもいくつか候補があり、場面によって使い分けて訳すというのが面白くて、奥深い言語の国に生まれて良かったなと思った。多角的な視点というのはこういうことなんだろうなと思った。そして人によって意見が違うということを他の班の発表を聞いて改めて認識した。</p>
g	<p>普段日本文学を読んでいても中々着目しない翻訳という切り口から物語の場面や状況を整理していくのは新鮮で、よりその登場人物や背景を深く考え知る事が出来たように思う。また、自分自身で訳に相応しい単語を選択する際、予想外の点で自分は行き詰まった。それは、敢えて抽象的で意味の幅が広い言葉を選択する事で、読み手に考察の余地を与えた方が本来の日本文学としての良さを活かす事が出来るのではないかという点だ。今回のようなテーマで授業をした事で、日本語の奥行きや深さこそが読み手の思考、想像の深さを造り上げている事を再確認し、文章の面白さに改めて触れた気がした。</p>
h	<p>イギリス人の翻訳家(A)と日本人の翻訳家(B)を比較したときに、Aは明示的でわかりやすく、Bは原文に近い形で直訳する、といったように翻訳の仕方に差が出るのは面白いなと思った。どちらが優れているかといったようなことはないが、私はより原文と同じ形で読者側に読者の余地を残してくれているBのほうが好みだった。また、「震え」を表す3つの英語のうち、私はかなりの自信を持って「shudder」が最も適切だと思っていたのだが、実際はAとBともに「tremble」を用いていたのでかなり驚いた。今日の授業を通して、改めて言葉の解釈というのは人によって異なること、その何通りもある解釈からしっかりと筋が通ったものを選ぶためには何度も言葉と向き合うことが重要だということを実感できた。</p>
i	<p>自分も前から気になっていた話題でもっと楽しく授業に参加できた。英語のニュアンスの細かさから英語は文字にしてその情景を分かりやすく表現していると感じたが、日本は言葉は英語より少ないけどその情景から読み取ってほしいという日本人特有の「空気を読む」という文化が文学作品の中にも自然に取り入れられていることが分かった。冬休みの課題で調べたことと内容が重なる部分があってより理解を深められたのでとても良かった。</p>
j	<p>今回の授業で、日本の表現の仕方と海外の表現の仕方はどこか違っており、ある言語の文学作品の表現を、ニュアンスを崩さないまま他の言語に翻訳するということがとても難しいことだと気づきました。また、表現の違いが生まれるのはその国の人々の習慣や性格によるもので、より正確に翻訳するには、その国に直接行き、その国の人々の生き方を観察する必要があると感じました。</p>
k	<p>今日の授業を通して、言語の違いやその言語を使う人達の感性によって表現の解釈が異なり、またそれはどちらも正しく、どちらも疑問に思う点があるのが面白いなと感じた。今回のように英語と日本語でも似たような言い表し方があるとしても、ニュアンスは微妙に違って、ネイティブにしか伝わらない表現というのが神秘的なように感じた。例えば日本語でいう「いただきます」や「たいたいま」なども英語で表現できても正確なニュアンスは伝わらないといったように日本語なら日本語、英語なら英語ならではの美しさがあるのだと思う。こうした視点から今回の授業のように一つの文学作品を見ていくと新しい発見や視点を得られてとてもおもしろいなと感じた。</p>
l	<p>今まで、読んだことのある本が英語ではどう書かれているのかということを考える機会がなかったので新鮮だった。英語の文章を読んだり書いたりすることはあっても、単語をただ調べるだけで、類義語を比べてより合っている単語を探することはあまりなかった。英語に関しても見方を変えようと思った。授業で読み込んだり自分で考えたことに基づいて英語を読むのではなく、色々な視点で考えられるようになっていったので、書く人によって翻訳の仕方に違いがある面白さを実感できた。日本の作家の話だと日本人だからこその表現とかがあるので、逆に海外の話も海外の人だとういう解釈をするのかとか、どちらの視点でも読めるようになったら楽しいだろうなと思った。</p>
m	<p>自分一人のみの考えだと、思考が広がっていかなくて同じ考えしか出来なくなってしまうので、交流をして意見を深め合ったり、個人でならよく内容を解釈をし、理解をちゃんとすることが重要であることがよく分かる授業だった。英語の歌詞の曲の和訳を調べることがあるのだが訳した人によって感じ方、捉え方が違うことを思い出した。授業だけでなく日常を通して色々な考え方をもちたいと思った。</p>
n	<p>英語に訳した結果と、その英語を再翻訳して日本語に直した先では、また違う結果になることに前から興味を抱いていたが、その現象を先生が「言語の幅」と表現していて、自分の中でつかえていたものが取れたような気がした。今回の授業のように、言葉の意味について考えて、自分の思う正しいものを選ぶ授業は、自分のポキャプチャーを増やせるだけでなく、他の人の考え方を理解しようしたり、より適正なものを選ぶことができるので、とても楽しい授業だった。</p>
o	<p>すぐためになる授業だったと思いました。まず、3つの単語から適切なものを選ぶ時、どこまで自分の解釈を入れたらいいのか悩んで、私は「先生」の行動から時系列で追ってその時の「先生」はどんな風に感じていたかと、それに合う単語を当てはめて考えていたのですが、みんなの意見を聞いたらそれぞれの解釈があって、感じ方の違いを感じました。また、最後に対馬先生がおっしゃっていた「言葉に責任を持つ」というのがとても印象に残りました。私もよくお母さんと共に同じことを言われていて、文を書く時はこっちはのほうが意味がよく通じるのかなと丁寧に言葉を選んで書いていますが、やはり話す時は丁寧にわかりやすく言えなかったり、自分が責任を追いたくないから「知らんけど」とか使ってしまったら、日常会話が負担な感じになってしまうので、しっかり普段から気をつけて、言葉を豊かにしたいなと思います。私は英語が好きで、将来は翻訳家になりたいと考えていたので、今日の授業はとても楽しかったです。また、対馬先生が大人になっても英語とか数学とかを勉強しているのがすごいなと思いました。私ももっと勉強しないとイケないと思ったし、大人になっても学び続けられるような人になりたいなって思いました。また時間があつたらこのような国語×英語の授業をしてほしいです。</p>

6. 成果

<p>a.教科横断による深い学びの実現／日常生活への波及</p> <p>各教科で獲得した様々な視点を組み合わせることによって、学習が授業内で完結することなく、その後の学習や生活にまで波及していった。これまでの学習やこれからの学習、さらには生き方にまで思いを巡らせながら、様々な教科を学ぶ意味を感じることで、今後の学習や生活の姿勢が前向きになった生徒が複数いた。</p>	<p>b.言葉の持つ力の認識／感性の醸成</p> <p>言葉に着目することによって、様々な価値観を尊重しながら豊かな感性を育成することができた。ある生徒は言葉が持つ力を認識し、他者を尊重しながら言葉を選択することが円滑なコミュニケーションに繋がると振り返っていた。また、複数の教科を組み合わせることによってそれぞれの言語が持つ美しさに気づくなど、感性が磨かれていくことを実感する生徒もいた。</p>
<p>c.多角的な視点の獲得／思考力等の育成</p> <p>目標を見据えながら授業をデザインしたことによって、多角的な視点から作品を読み味わうことができた。教科を横断することによって学習が散漫になることもあるが、教科の目標や内容を見通すことで、登場人物の心情把握や本文読解といった、知識技能の領域や思考力判断力表現力等の領域においても効果があった。</p>	<p>d.文化理解／尊重</p> <p>自国の文化を理解したり、他国の文化を尊重する姿勢が身に付いた。どちらが良いということではなく、それぞれの文化に考え方や表現の仕方があることを知り、その意味について思いを巡らせる生徒がいた。</p>

7. 課題

<p>a.授業デザイン</p> <p>教科を横断させることはあくまでも学習目標を達成するための一手段であるため、活動が先行しないように注意しながら、事前に各教科の知識を身につけるなど十分な素地を作ったうえで、目標に向かって学習を促さなければならぬ。特殊な学習形態は生徒の心を掴むが、決して見掛け倒しにならないように、学習の先に何があるのかを見据えて授業をデザインする必要がある。</p>	<p>b.日常での自発的な教科横断</p> <p>生徒たちが日常で自ら教科横断的に学習するには、どのように支援すればいいか…？</p>
---	---